

6-6					
主題	介護過程の意義と目的				
副題	向き合うものは人のこころ				
キーワード 1	事後実習	キーワード 2	情報の共有化	研究(実践)期間	12ヶ月
法人名・事業所名	学校法人 サンシャイン学園 東京福祉保育専門学校 2年				
発表者(職種)	酒井柚月、吉田悠作、タオ、ハー、プルニマー				
共同研究(実践)者	松本次生(担任)				
電話	03-3981-1686	FAX	03-3987-0360		
事業所紹介	<p>東京福祉保育専門学校は豊島区東池袋にある介護福祉士養成校です。1988年4月に全国で最初に介護福祉士養成校として厚生労働省より認可されました。当校では、双方対話型の授業が特色で実践力のある学生を養成しています。現在は、介護福祉士を目指す留学生も多数在籍しています。</p>				
<p>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</p> <p>現在、介護福祉士養成校を2年間で卒業するまでに1850時間のカリキュラムが必須である。そのうち450時間以上に施設実習が含まれている。</p> <p>特に学内で学習し学んだことを介護実習Ⅰ・Ⅱ-①・Ⅱ-②の中で実践を通して介護過程を理解することが目標である。授業では理解できても介護実習では短い時間の中で実践することは簡単ではなかったが、実習が進むにつれて介護過程の意義と目的を理解する。</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>介護過程の意義と目的を理解することから始める。</p> <p>老いや衰え、障害を持つことによって生じる、利用者の抱える生活上の困難や不便(生活障害)を少しでも解消し、その利用者が望むその人らしい生活の再構築を側面的に支えること、それも介護職が一方的に行うのではなく、利用者が自らの意志に基づいて、質の高い生活を送ることができる様に支援する。(利用者本位・自立支援)</p> <p>私たちの周りには、誰の目からも見える疾病や身体的な障害を持っている人がいる。また、心身の状態がこれ以上悪くならないように、少しでも良くなるように、できれば生活力の回復までも願っている人も多数存在している。その一方で、中には人生を諦めている人もいる。</p> <p>介護という関わりは、人々がなぜ今の状態になったのかを突き詰め、原因をとり除いたり、本人の意欲をかき立てながら、ひとり一人の利用者がその人らしく生きていけるように支援していきけるようなシステムであることを理解する。</p>					

《3. 具体的な取り組みの内容》

介護実習Ⅰ

- ①初めての施設実習のため、6月に施設見学を行う。
- ②施設に訪問して利用者とのコミュニケーションを図る。
- ③授業ではプロセスレコードを活用して利用者を理解する。
- ④実習では、利用者を知ることを始める。課題としてプロセスレコードの実践を行う。
- ⑤利用者の同意を得て情報収集について取り組む。

介護実習Ⅱ－①

- ① 介護実習Ⅰの報告会を行い、介護実習全般を振り返る。
- ② 集めた情報の質と量が大切であることを確認する。
- ③ 授業では、ICFをとりいれた情報収集のアセスメントの方法を学習する。
- ④ 立案に際しては、利用者が主体であることを確認する。
- ⑤ 2回目の実習のため利用者の把握が容易に出来た。
- ⑥ 介護実践と課題の両立は難しかった。特に、アセスメントの段階で、利用者に必要な支援とその理由を明確することが難しかった。

介護実習Ⅱ－②

- ① 実習の総まとめとして立案して実施までの課題がある。
- ② 立案に対しては学生が実施できる内容にする。
- ③ 立案にあたり、一人ひとりが生活者である高齢者の「望ましい生活」の具体的な到達目標を立案する。到達目標が、根拠のない単なる願望にならないように十分にアセスメントすることが重要であることを習得する。
- ④ 実習では個別支援の方法を学び実践力の向上を図る。

《4. 取り組みの結果》

介護過程とは、日常生活における問題解決過程と生活支援過程を取り入れた、利用者個人を対象とした、介護職による支援活動の過程であることを理解する。

展開するためには、①情報収集→②アセスメント→③計画の立案→④実施→⑤評価の順で構成されている。このシステムは、何も介護特有のものではなく、実生活のあらゆる場面で意識しないに関わらず用いられる手法であることを理解する。

《5. 考察、まとめ》

介護実習450時間の中で全てを理解することは困難であった。そのため、情報収集の方法、アセスメントの仕方、立案では利用者主体でできているのか。介護者が勝手に計画を立てていないか。授業の演習の時間の中で学生同士が確認して、実習に向かったが、実践力の向上と並行して課題を実施するのは難しかったが、少しずつではあるが理解することで自己の成長を知る。

《6. 提案と発信》

私たち学生は施設実習では不安を抱えて実習に臨みましたが、職員の皆様の丁寧な指導や利用者の皆様の励ましが有り有意義な実習することができました。私たちも学習や実習が進むにつれ介護施設に就職して利用者に愛されるような介護福祉士を目指すことを約束します。